第2期 10 月1日開催
丹波市上下水道事業運営審議会

議　事　録

令 和 ８ 年 １０ 月 １ 日（ 木 ）
春 日 庁 舎３階　３０１ 会 議 室

1　開会日時　　令和８年 10 月１日（木）　午後１時 30 分　開　会

2　開催場所　　春日庁舎３階　301 会議室

3　出 席 者　　（委　　員）
笹川　一太郎　委　員　、　野　垣　克　巳　委　員
井　上　利　博　委　員　、　内　堀　恭　子　委　員
國　光　はるみ　委　員　、　関　下　弘　樹　委　員
神　成　　徹　委　員　、　石　塚　和　彦　委　員
委　員　８　名

4　欠 席 者　　（委　　員）
是　枝　博　昭　委　員　　委　員　１　名

5　傍 聴 者　　１名

6　事 務 局　　北野　壽彦　上下水道部長　、村上　　健　下水道課長
足立　　渡　下水道課副課長兼施設係長
矢持　竜児　下水道課経理係長、松本　雄一　下水道課工務係長

事務局　５名

7　会議に付した議題及び案件とその内容
次　第　１　　開　会
次　第　２　　会長あいさつ
次　第　３　　資格審査報告
次　第　４　　議事録署名人選出
次　第　５　　審議
・丹波市下水道中期ビジョン 2022-2031 の改訂について
次　第　６　　その他
次　第　７　　閉会

8　議事の経過

1　開　　会
（ 事 務 局 ）
定刻が参りましたので、ただいまから第２期の 10 月１日丹波市上下水道事業運営審議会を開催いたします。
委員の皆様には大変ご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

2　会長あいさつ
（ 事 務 局 ）
それでは、井上会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

（ 会 長 ）
暑い夏も終わって、もう秋が来るかと思ったんですが、非常に雨ばかりで悪天候が続いて稲作の方も、もう芽が出るという人もおられましたし、大変な状況です。
千葉県でも異常気象の関係で、下水が噴き出したり、あれを見ると他人事ではないなという気がいたします。
10 月に入ってやっと涼しくなって、事務所も扇風機を片付けようかというところですが、昨夜帰りに信号で止まっていると非常に綺麗な月が出ておりました。
忙しい中でも、季節感を皆さんには楽しんでいただきたいなと思います。
それでは、本日は上下水道事業運営審議会ということで、委員の皆さんにはお忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。
本日の会議は、丹波市下水道中期ビジョン 2022-2031 の改訂に向けて、「投資・財政計画」の見直しができたようですので、この「投資・財政計画」が妥当かどうかの確認を予定しています。
それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。
なお、資料にざっと目を通したんですが、ここ十年ほどは財政が危機的な状態になるというようなシミュレーションは出ていませんので、安心したところでございます。
ただ、今日テレビで春日部市が水道料金を大幅に値上げする、人口減少の中で負担をしていかざるを得ないと、そういった状況が報道されておりました。
人が減っても下水や水道は引かないといけないので、コストが非常に高くなるということは理解しなければならないと思うんです。
そうしたシミュレーションについても、このあと報告いただければと思います。

（ 事 務 局 ）
ありがとうございました。
それでは、ここからは井上会長に議事の進行をお願いいたします。

3　資格審査報告
（ 事 務 局 ）
それでは、次第３事務局から資格審査報告をお願いします。

（ 事 務 局 ）
本日ご出席の委員様は７名で過半数以上の出席でございます。
よって、条例第６条の規定により、本審議会が成立することをご報告いたします。

4　議事録署名人選出
（ 会 長 ）
続きまして、次第４本日の議事録作成のため、私から議事録署名人を指名させていただきます。

笹川委員、野垣委員に議事録署名人をお願いします。

お二人には、後日、事務局において議事録が作成されましたら、内容を確認いただき、署名をお願いいたします。
続いて審議に入る前に、前回、国土強靭化の補助金の活用について、お聞きした件ですが、事務局から報告があればお願いします。いかがでしょうか。

（ 事 務 局 ）
国土強靭化の補助金については、該当する事業の１つに下水道施設の耐震化がございます。
これは地震が起きた時に、もし下水道が破損してしまうと、トイレが使えなくなり、避難所や病院の機能が止まってしまいます。
そういった事態を防ぎ、人々の健康や生活を守るために、下水道施設をしっかり補強するための事業です。
そのための計画を丹波市でも作っており、この計画に基づく補助金として「下水道総合地震対策事業交付金」がございます。
この補助金は、下水道施設の建設改良に対する補助金とは別枠で申請できますので、有効に活用していきたいと考えています。

（ 会 長 ）
補助金と交付金の違いはありますか。

（ 事 務 局 ）
国交省所管の自治体向け補助金は、交付金として名称が統一されています。意味合いは同じです。

（ 会 長 ）
ありがとうございました。
積極的に取りに行くということで結構かと思います。

５　審　　議

（ 会 長 ）
それでは、次第５の審議に移ります。
事務局から、「丹波市下水道中期ビジョン 2022-2031」の改訂について、説明をお願いします。

（ 事 務 局 ）

－　資料１、２、３により説明　－

（ 会 長 ）
ありがとうございました。
説明の中の「元金償還金と減価償却費の差額を企業債で調整する」という仕組みが民間にはないのでわかりにくいですね。
具体的に数字を出してもらえますか。

（ 事 務 局 ）
確かに民間にはないです。
32 ページに資本費平準化債という項目があります。企業債としては約 13 億円借り入れますが、資本費平準化債は 10 億円ほどです。

（ 会 長 ）
これから徐々に減って、13 年度には約２億円になりますね。

（ 事 務 局 ）
元金償還金と減価償却費の差額なので、これから元金償還金も減価償却費も減ってくるのに合わせて、資本費平準化債も減っていきます。

（ 会 長 ）
企業債というのは国から借り入れるものですか。

（ 事 務 局 ）
国はもちろん民間からも借り入れできます。

（ 会 長 ）
水道には資本費平準化債というものがないので、わかりにくいですね。

（ 事 務 局 ）
資本費平準化債は減っていきますが、市民の皆様には追加の負担をお願いすることなく、現行の使用料を維持した状態で事業の運営が可能である見通しです。

（ 委 員 ）
２点あります。
１点は余剰金を国債や地方債で運用していると言われました。いっぽうで、企業債を借り入れている。
このようなやり方をしているのが気になります。
もう１点は、31 ページの 12 年度、13 年度の経常損益がマイナスの見込みになっています。経常損益はプラスであるべきとの説明でしたが、プラスにはできないんですか。

（ 事 務 局 ）
今回のシミュレーションについては、前提として28、29ページに記載した条件をもとに集計しています。
黒字であればいいですが、12年度、13年度については経常損益が赤字の見込みですので、その場合は経理上、繰越利益剰余金を充てることを考えています。

（ 委 員 ）
シミュレーション結果は変えないということですか。

（ 事 務 局 ）
はい。前提条件をもとにシミュレーションするとこうなります。それを黒字に調整するやり方はしません。
また、前段の余剰金を運用している点については、企業努力の一つと捉えていただきたい。

（ 委 員 ）
Ｉ列の繰越利益剰余金が動くだけで他の影響がないということですね。

分かりました。

（ 会 長 ）
一般会計の繰入金が多いことについて、使用料収入が国の基準を満たしていないということですか。

（ 事 務 局 ）
丹波市の下水道事業では、一般会計から赤字補填を受けるような基準外の繰り出しはありません。
国が定めたルール通りのものを受けています。
使用料で賄えればいいとは思いますが、基準通りの繰入金を受けているだけなので、これを減らして使用料収入で賄おうとすると使用者の負担が大きくなります。
そうならないよう国が下水道に関しては措置を取っています。

（ 会 長 ）
どうしても繰入金が多いというところに目がいきます。
でも、そのおかげで使用者の負担が増えないようになっている。
そういうことですね。

（ 事 務 局 ）
参考までに、昨日県のホームページに掲載された資料では、下水道事業に対する一般会計繰入金が自治体の財政規模に占める割合を表したもので、県平均 6.2%、丹波市は5.1%となっています。平均より抑えられていることがわかります。

（ 会 長 ）
後ほど、各委員にその資料の共有をお願いします。

（ 委 員 ）
令和７年度の貸借対照表の中で、投資有価証券が３億９千万円あるんですが、これはほとんどが国債ですか。

（ 事 務 局 ）
地方債が３億円、国債が１億円です。

（ 委 員 ）
この国債の評価というのは、どのようにしているんですか。

（ 事 務 局 ）
国債の評価については、市場価格で評価する方法と償却原価法があります。
地方債は新発債を買うので１億円のものを１億円で買います。
国債は市場に出回っているものを、たとえば１億円のものが９千８百万で買えます。
償却原価法というのは、額面よりも安く買った国債が、満期時に額面通り戻ってくるまで、差額を毎年少しずつ利息収入として評価額に足していく会計処理のことです。

（ 事 務 局 ）
市場価格に連動した評価ではないということです。国債は途中で売ったりしません。

必ず持ち切りますので、額面を下回って損が出るということはありません。

（ 会 長 ）
関下先生のご意見いただきましょう。

（ 委 員 ）
内容についての質問はありませんが、今回はこのまま行くということで、この先の見通しはどうお考えですか。
何年後かには、使用料改定を考えていますか。

（ 事 務 局 ）
５年後には現在のビジョンが終わりますので、新たなビジョンを作成いたします。
その際には、同じようにシミュレーションすることで、状況がどうなっているかによりますが、状況によっては使用料を改定する案を視野に入れる必要性もあると考えております。

（ 委 員 ）
わかりました。
運営上、突発的な事象が起これば何か対応は取られると思いますが、そこまでは考えないですか。

（ 事 務 局 ）
何か大きな変動が生じて使用料の改定が必要な時には、この審議会で検討いただきます。

（ 委 員 ）
ありがとうございました。
設備投資は順次やっていくようですが、この投資額で十分と考えてよろしいですか。

（ 事 務 局 ）
ご心配いただいているのは、おそらく物価高騰や人件費の高騰によって工事費が上振れしていく可能性が大きいという部分ではないかと。
それを今想定することは難しいですので、事務局では、このシミュレーションを毎年見直して確認する作業は繰り返しやっていきたいと思っています。
その結果、必要があれば審議会に諮らせていただきます。

（ 委 員 ）
ありがとうございます。

（ 会 長 ）
国では PPP・PFI や民間活力に力を入れてます。
そういう方法を将来展望すべきかどうかという点と、大阪市では、下水処理場で下水から熱を取り出す事業で利益上げているようですが、丹波市のような自治体でもそうした取組みが可能なのかどうか、関下先生のご意見を伺いたいと思います。

（ 委 員 ）
ありがとうございます。
水道事業でも包括委託されてますので、私自身の印象では、スピード感の違いはあるとは思いますが、現状取り組んでおられると思います。
経費という視点も、今の段階では大丈夫かなと思います。
ただ、この先、コストだけの要素ではなく、人員であるとか、その辺の要素も含まれてくるので、総合的に考えながら、継続して検討されていくんだろうと思っています。
それからもう一つの、新技術であるとか、環境対応の技術ですけれども、隣の福知山市でも、汚泥の資源化に取り組まれています。
また、ガスを取り出すところもありますが、丹波市の規模で言うと、商業ベースに乗りにくいかなと思います。
規模の問題で、丹波市だけでペイするかというと、難しいというのが私の印象です。

（ 会 長 ）
その他ご質問はございますか。

－　質疑なし　－

それでは質疑がないようですので、以上で本日の審議を終了いたします。長時間のご審議ありがとうございました。

6　そ の 他

（ 会 長 ）
続きまして、次第６その他でございますが、事務局より連絡事項はありますか。

（ 事 務 局 ）
次回の審議会では、本日了承いただいた内容をまとめた答申案と、たんば水ビジョンについてご審議いただきたいと考えております。
日程につきましては、11 月４日（水）、５日（木）、６日（金）のいずれかで考えております。
皆様のご都合はいかがでしょうか。

－　各委員で調整　－

それでは、11 月５日（木）13 時 30 分から予定させていただきます。

（ 会 長 ）
他にないようですので、本日の審議会は、これにて終了します。
それでは副会長さん、閉会をお願いします。

7　閉　　会

（副 会 長）

皆様、長時間に渡りまして慎重にご審議ありがとうございました。

また、次回もご意見をたくさん出していただきますようお願い申し上げます。

これをもちまして、本日は閉会とさせていただきます。

午後　3時30分終了